

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 62 (年4回発行)

■発行日 平成24年1月1日
■発行 三春まちづくり協会
■編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町字大町178 (旧公民館内)
TEL/FAX (62) 3988

新年のあいさつ

三春まちづくり協会長 幕田勝寿



新年明けましておめでとうございませう。

昨年三月十一日発生した東日本大震災、それに伴う福島第一原発事故の発生から十ヶ月になろうとしております。三春町でも依然として、放射能に関する健康不安や風評被害の長期化などの混迷が続いております。こうした状況の中、三春まちづくり協会においても、原発事故に伴う放射性物質の影響により、クリーンアップ作戦の中止、城山公園アジサイの草刈り作業の縮小等変更を余儀なくされましたが、「白河市中心市街地活性化のまちづくり」視察研修をはじめ、各部長を中心それぞれ活動計画を進めておるところです。

三春町でも、桜川改修工事が町中心部に進み、関連してヨークベニマルが町中心に移転するなど、市街地構造の変化によるまちづくりと災害克服による安全・安心のまちづくりに向けた新たな年でもあります。

三春まちづくり協会としても、協働のまちづくりに向け頑張っておりますのでよろしくお祈り致します。

年頭にあたり、皆様のご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

第44回出前懇談会

○日時：1月11日(水)
午後7時～

○場所：交流館まほらCD学習室

○テーマ：「三春町の除染実施計画等について」

《町民のみなさん、
どなたでも
参加できます!》



平成二十三年度まちづくり懇談会

十一月十六日、三春交流館まほらのホワイエで、平成二十三年度まちづくり懇談会が開催されました。村上副協会長のあいさつの後、鈴木町長、儀同副議長からあいさつをいただき、懇談会となりました。



活動の取組体制、作業範囲、除染目標値等。

④三春町除染計画の策定について(住民課)

・環境省の基本方針案、今後の三春町の取組み

⑤一級河川桜川河川改修事業等について

⑥国道二八八号三春西バイパス改築事業について(建設課)

・それぞれの事業概要

⑦コメの放射性物質調査の結果について(産業課)

・予備調査七箇所、本調査二十六箇所の結果

⑧三春秋まつり2011事業結果報告(産業課)

⑨新三春中学校建設事業の進捗状況について(教育課)

・建築工事概要、新三春中学校開校準備委員会の開催状況等

⑩平成二十三年度秋季企画展「お皿とお箸とお茶碗と食と器の生活史について」

⑪第二十三回ふくしま駅伝大会について(生涯学習課)

⑫三春町議会委員会構成等について(議会事務局)

■各地区からの要望事項

長獅子の振興・保存に関する検討のお願い(八幡町)

■会場からの主な質問

「町の除染計画は通学路だけなのか、全町の除染を進めるのか」

・現在進めているのは、道路(線量の高い通学路)を中心の作業。町全体の除染については、ほぼ町全域が年間一ミリシーベルト以上になると思われるので、住宅、道路、公園、農地、山林、河川などについて、除染計画を策定し実施していく。

(特措法は一月施行)

「新三春中学校建設に関して、企画の段階で生徒の参加はあるのか」

・生徒の意見も取り入れながら進めている。

「学校給食の食材について」

の現状は」

・米は二十二年産米を使っている(一月分まで)。

野菜についても放射線量を測定している。

「井戸水の安全性、水質検査についての要望」

第四十三回

出前懇談会速報
(十二月十四日開催)

■テーマ「新三春中学校建設の進捗状況と跡地利用」

新三春中学校建設に伴い使わなくなる現校舎の利用については「三春町公共施設整備方針検討委員会」で検討していく。

◎委員会のメンバー

区長会長・各地区まちづくり協会長・商工会長・たむら農業協同組合理事・女性団体連絡協議会長・県建築士会田村支部長・副町長・教育長。その他関係する担当課長も参加し、事務局は財務課が担当する。

◎町長からの諮問事項

①役場庁舎を始めとする公共施設の整備に関する事

②中学校の跡地利用に関する事

③その他の公共施設の整備に関する事

◎今後のスケジュール

二十四年五月 中間報告

二十五年二月 答申

※懇談会の資料は三春まちづくり協会事務局にあります。

協会活動だより

「まちづくり視察研修」報告

街並部会 佐久間 保一

本年度の視察研修は、幕田会長が見つけた新聞記事から始まり、白河市の「蔵を利用したまちづくり」の記事です。三月十一日の地震によりわが町でも被害がたくさん出ましたが、白河市はどのような「まちづくり」をしているのか見に行きましょう、ということになりました。下調べをしてみると、白河市と三春町、白河藩と三春藩、町の大小はありますが、歴史的背景、抱えている問題や、取り組んでいる「まちづくり」には似ていることが沢山ありました。街なかには蔵が沢山ある、街なかの河川改修、大規模店舗の景観に対する配慮、空き店舗対策、山車の収納庫等です。



今回は「新しい図書館」と白河駅の「駅カフェ」と「中町蔵活用事業」と「河

川改修」を見てきました。図書館は、オープンして間もないため、大変盛り上がったので一寸見て終わりました。「駅カフェ」は歴史ある旧駅舎の、現在利用されていない部分がカフェにし、時間待ちや待ち合わせに利用するといった施設で、設計者の好みによりフランクロイド・ライト味のある内装に仕上がっていました。

蔵を利用した事業は、株式会社で運営し「楽蔵(らくくら)」という名称で、旧商工会議所(津野デパートの発祥地)の事務所跡の蔵を利用し、新しく建てた建物の四棟で成り立ち、展示と案内、農産物の直売所、ラーメン店、白河だるま、洋品店、お土産やで構成され興味ある施設になっていました。

最後は、河川改修の散策路を歩きながら、名物の白河蕎麦屋さんに着き、午前の盛りだくさんの視察だったので遅い昼食になり、おいしい蕎麦に空腹の調味料が加わってよりおいしく頂きました。その後、南湖公園に寄り帰路につきました。時間の都合で山車庫や空き店舗事業は視察できませんでした。事前調査で私は案内していただきましたが、なかなか面白い試みだったので、今回皆さんは残念でしたが、是非見に行ってください。

「散策路踏査」の実施

地域部会 仁井田 弘美

地域部会では、当初予定した散策路踏査は生憎の大雨で中止し、九月六日に実施しました。



散策コースは、龍穩院↓日本化学福島第二工場↓愛宕神社と紫雲寺↓三春中学校へ抜ける二ヶ所のコースを散策し、不具合箇所を点検しました。散策中、安達太良山の大自然をバックに参加者全員でスナップ写真をとり、和気あいあい散策を楽しみました。

散策終了後は、事務局にて反省会を行い、不具合箇所をとりまとめました。

指摘事項としては、日本化学福島第二工場入口の標示板の老朽化と日本化学龍穩院間の散策路、路肩の崩落、階段のポルト止めの突起有り等、数ヶ所の不具合が有り、後日対策することになりました。

今後散策を楽しみながら、散策路踏査を行いたいと思います。

「三春の碑」廻り

地域部会 村田 紀佳

地域部会の二十三年度の活動として「地域の再発見・三春の碑廻り」を実施しました。今回は、町内の句碑、歌碑、辞世碑等を副部長の田母野先生の丁寧なご教示により浅学の小生でも理解することができました。今までは、散歩する時に路傍にある碑には目に触れることも無く通り過ぎていきましたが、其々の碑に刻ん



である文言には謂れが有り、三春のこのような碑に係った人々とその時代背景に興味を湧かされました。北町の山田屋旅館の庭にある若山牧水の歌碑は残念ながら庭に入ることが出来ず、土塀の外から植木に隠れた後ろ姿が見えました。歌碑は資料に「時をおき老木の雫おつるごと静けき酒は朝にこそあれ 醉牧水」と記されている。山田屋旅館に宿泊した時に詠んだ句「山田屋の庭の檜の木に雪降り」がある。牧水さんの句は酒に関する句が多

新春お年玉クイズ!

あなたは、町内を歩いて写真のような石柱にいくつ出会いましたか? 現在、町内には29基の石柱が設置され、それぞれの場所の古称や謂れを将来へ言い伝えています。昨秋に予定した「石柱拓本ラリー」が雨で中止となりましたので、新春特別企画として「石柱場所当てクイズ」となりました。 [街並部会]

皆さん、ふるってご応募ください!

石柱場所当てクイズ

問題 地図中のA・B・Cの順にヒントの番号でお答えください。

ヒント

- 「化粧坂」…むかし、三春城下に入る人々は、この井戸で化粧を直したと伝えられている。
- 「八十内」…三春藩筆頭家老の荒木家の下屋敷があった所で、桜の名所としても知られている。
- 「せり場」…三春城下の馬の競り場として賑わったところ。

☆解答は、まちづくり協会までFax. 62-3988または、ハガキに住所・氏名を記入しお寄せください。
☆切は、1月20日(金)迄。
☆正解者30名(多数の場合は、厳正抽選)に「革製オリジナルストラップ」を差上げます。なお、発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

編集後記

三春に移り住んで三回目の正月を迎える▼新年の挨拶は、未だ、昨年の大災害に苦しむ方々がいる中、中止。早く安心、安全に暮らせる町に戻れることを切に願う▼図らずも、地域コミュニティの仕事を参加することになって一年を迎える。今日では、都市農村を問わず地域社会の変化著しく、従来の考えが通用しづらくなつたそうである▼そういえば、都会では向う三軒両隣の住民を殆ど知らず、他人に無関心である。地方では、町内隣組の行事「町内清掃、葬儀の手伝い等」これらの事柄に直面した場合、核家族(前回の国勢調査で家族構成の一位は一人暮らしで、三二%)、高齢化の現状では難しいであろう▼地域コミュニティの仕事は煩雑である。しかしながら、これらの事は住民の安全、快適な生活を維持する上に必要なことである▼昨年、三期目を迎えた鈴木町長へのインタビューで情報の共有化として、あらゆる手段を用いて随時提供しているとの話、この手段の一つとして行政区、出前懇談会がある。我々も情報の発信、収集に多いに活用すべきであろう▼今年には行政区の仕事に係り、その一環「まちづくり協会」の広報部会に参加し一年になるが、これを機に地域コミュニティの有り方を学んでいきたい。(小川)

コミュニティだより
「三春わが街」第六十二号
発行日 平成二十四年一月一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報部 会
三春町字大町一七八
(六二) 三九八八